

横浜市 浸水ハザードマップ (中区)

「情報の入手方法と日頃からの備え」をご覧ください

浸水想定区域以外の方も、日頃から浸水に備えておくことが重要です。

あなたのお住まいや職場で浸水が発生するおそれがありますか？

- 「浸水ハザードマップ」(下水道水路からの浸水)
- 「洪水ハザードマップ」(河川氾濫による浸水)
- 「高潮ハザードマップ」(高潮による浸水)

の、浸水想定区域を確認しましょう。

「浸水ハザードマップ」「洪水ハザードマップ」の浸水想定区域となっている方 ⇒ 「2」 内水氾濫と洪水 (河川氾濫) の発生について」をご覧ください。

「高潮ハザードマップ」の浸水想定区域となっている方 ⇒ 「3」 高潮の発生について」をご覧ください。

マイ・タイムラインを作成しよう

マイ・タイムラインとは、台風や大雨の水害等、これらに起こるかもしれない災害に対し、一人ひとりの家族構成や地域環境に合わせて、あらかじめ時系列で整理した自分自身の避難行動計画です。

1 情報の入手方法と日頃からの備え

ハザードマップを使って、お住まいの地域の危険度を把握し、適切なタイミングで避難行動を起こせるよう、日頃から情報収集をしましょう。

自動配信されるもの (PUSH型)

- 横浜市防災情報メール 要事前登録
 - あらかじめ登録したパソコン・携帯電話に防災情報等が配信されます。
 - 防災アプリ 要事前登録
 - Yahoo!防災速報アプリをインストールしていただくことで、横浜市の防災情報等をスマートフォン等で受信できます。
 - アプリをインストール
- 防災速報メール
 - 緊急速報メールに対応した携帯電話に配信されます。
- 観測地点警報装置 (設置のない区もあります)
 - 屋外スピーカーからの音声放送やサイレンにより、災害発生時の危険性や避難情報等をお知らせします。
- 緊急通報放送
 - テレビラジオ等から警報音を発し、重要かつ緊急な災害情報を放送します。
 - 広報車等による広報
 - 状況に応じて、必要な地域へ広報車が出勤します。
 - また、職員を派遣したり、消防団ヘリコプターを出勤させることもあります。

自分で情報収集するもの (PULL型)

- ホームページ
 - 横浜市 防災情報
 - 気象警報や河川の水位、潮位等を検索することができます。
 - 横浜市 防災情報
 - 防災情報ポータル
 - 避難指示の状況及び避難の進捗状況を確認することができます。
 - 防災情報ポータル
 - 降水ナウキャスト
 - 現在の雨雲の動きや今後の動きを確認することができます。
 - 降水ナウキャスト
- 横浜トップページ (緊急情報)
- X (横浜市防災用Twitter) @yokohama_saigai
- テレビ (tvk、ケーブルテレビ、データ放送など)
- ラジオ (コミュニティFMなど)

2 情報の入手方法と日頃からの備え

ハザードマップで自宅と避難場所を確認しよう

- 自宅付近が浸水したときにどのくらいの水深になるかを確認しましょう。
- 自宅から避難場所までの複数の道順や方向を、ハザードマップに書き込みましょう。
- なお、災害の状況により、開設する避難場所は異なります (ハザードマップ参照)。避難する際は、市・区ホームページ等で開設している避難場所を確認してください。
- 地域では、このハザードマップを活用した訓練を行い、災害時の適切な行動につなげましょう。

避難時の持ち出し品を確認しよう

- 避難時の持ち出し品は日頃から準備し、すぐに持ち出せるようしておきましょう。
- 持ち出し品はできるだけ少なく (ラジオ、飲料水、懐中電灯、医薬品、ベビー用品、マスクなど)。また、リュックサックなど、両手があくものに取りまわす程度にしましょう。
- 避難場所には食料、水、タオルなど、必要なものを所持しましょう。

側溝や雨水ますを点検しよう

- 側溝や雨水ますをふさがないようにしましょう。
- 雨水ますの吸い込み口が落ち葉やごみで詰まると、道路浸水などの原因になります。
- 雨水ますやし型側溝の上に車乗り入れブロックなどを置かないようにしましょう。

浸水に備えよう

- 家にあるもので浸水を防ぎましょう。土のうやプランター、家庭にあるごみ収集袋などを利用した水のうなどを使って浸水を防ぐことができます。
- 大雨の際には、洗濯機、トイレ、風呂場の排水口など思わぬところから水が逆流することがあります。排水口を水のうなどでふさぎましょう。

家庭でできる浸水防止対策の一例

- ごみ収集袋 (45リットル) を二重にし、中に半分お水を入れ、水のうを作ります。
- 水のうと長めの板などを組み合わせると、浸水を防ぎます。
- 水のうは段ボール箱に詰めることで、強度が増します。
- プランターをならべ、レジャーシートで包み浸水を防ぎます。

3 高潮の発生について

高潮とは

台風や低気圧に伴う強い風が吹き寄せ、海面が押し上げられること、また、台風や低気圧に伴う強い雨が降ると、川や海の水が押し寄せ、海面が押し上げられることにより、海面が押し上げられることによる浸水現象を指します。

高潮による浸水の発生メカニズム

台風や低気圧に伴う強い風が吹き寄せ、海面が押し上げられること、また、台風や低気圧に伴う強い雨が降ると、川や海の水が押し寄せ、海面が押し上げられることにより、海面が押し上げられることによる浸水現象を指します。

高潮ハザードマップの使い方

高潮ハザードマップは、高潮による浸水の危険度を示しています。浸水想定区域は、浸水深度が1.0m以上の区域を示しています。

2 内水氾濫と洪水 (河川氾濫) の発生について

内水氾濫の発生

大雨が降ると下水道などで全ての雨水を排水できなくなり、内水による浸水が発生します。

洪水 (河川氾濫) の発生

激しい雨が降ると、洪水 (河川氾濫) の危険が高まります。

内水氾濫とは？

内水氾濫とは、雨の量が下水道などの排水能力を超えたときや、河川などの排水先の水位が高くなったときに雨水を排水できなくなり、浸水することです。

洪水 (河川氾濫) とは？

洪水 (河川氾濫) とは、大雨によって河川などの水位が上昇し、堤防を越えて水があふれたり、堤防の土砂が流出して決壊したためです。家屋の倒壊や流出など、大規模な被害を引き起こします。

内水ハザードマップとは？

内水ハザードマップは、河川堤防を越えて水があふれることも表現していますが、堤防の決壊は想定していないため、洪水ハザードマップも併せてご覧ください。

洪水ハザードマップとは？

洪水 (河川氾濫) によって想定される浸水区域や浸水深さの情報をまとめたマップで、浸水が想定される区域の指標に連動して避難するためのマップです。河川上流域での雨が降っている場合など、雨の降り方によっては、内水氾濫より前に洪水 (河川氾濫) が発生することもありますので、気象情報や河川水位にご確認ください。

想定降雨

1時間で153mmの降雨

想定降雨

大岡川水系：24時間で332mmの降雨
帷子川水系：24時間で390mmの降雨

想定降雨

大岡川水系：24時間で332mmの降雨
帷子川水系：24時間で390mmの降雨

避難情報がでたら

身の危険を感じる場合は避難を開始してください。

(1) 情報の入手方法と日頃からの備え (2) 避難の考え方 (3) 避難の手続き

警戒レベル	とるべき行動	避難情報 (横浜市)	気象情報 (気象庁)	水位情報 (神奈川県)
警戒レベル5	【命の危険 直ちに安全確保！】 ● 災害が発生・切迫しており、命を守るための最善の行動をとる。 ● 警戒レベル4までに必ず避難！	緊急安全確保	緊急安全確保	警戒レベル相当情報
警戒レベル4	【危険な場所から全員避難】 ● 直ちに身の安全を確保できる場所へ避難する。 ● 避難場所までの移動が危険と思われる場合は、避難場所まで避難する。避難場所のない安全な場所へ避難する。	避難指示	避難指示	土砂災害警戒情報 氾濫危険情報
警戒レベル3	【危険な場所から高齢者等は避難】 ● 避難に困難を要する人 (高齢者、障害者、妊婦、乳幼児、高齢者) とその家族、安全な場所へ避難を促す。 ● その他の人は、家族などとの連絡、持ち出し品の整理など、避難の準備を開始することにより、危険な場所から避難する。	高齢者等避難	高齢者等避難	土砂災害警戒情報 氾濫警戒情報
警戒レベル2	【自らの避難行動の確認】 ● 避難に備え、ハザードマップ等により自らの避難行動を確認する。 ● 避難情報の把握と、避難手段の確認をする。	-	-	大雨・洪水警戒情報 氾濫注意情報
警戒レベル1	【災害への心構えを高める】 ● 防災気象情報等の最新情報に注意する。	-	-	早期注意情報

3 高潮の発生について

高潮とは

台風や低気圧に伴う強い風が吹き寄せ、海面が押し上げられること、また、台風や低気圧に伴う強い雨が降ると、川や海の水が押し寄せ、海面が押し上げられることにより、海面が押し上げられることによる浸水現象を指します。

高潮による浸水の発生メカニズム

台風や低気圧に伴う強い風が吹き寄せ、海面が押し上げられること、また、台風や低気圧に伴う強い雨が降ると、川や海の水が押し寄せ、海面が押し上げられることにより、海面が押し上げられることによる浸水現象を指します。

高潮ハザードマップの使い方

高潮ハザードマップは、高潮による浸水の危険度を示しています。浸水想定区域は、浸水深度が1.0m以上の区域を示しています。

高潮による浸水の発生メカニズム

台風や低気圧に伴う強い風が吹き寄せ、海面が押し上げられること、また、台風や低気圧に伴う強い雨が降ると、川や海の水が押し寄せ、海面が押し上げられることにより、海面が押し上げられることによる浸水現象を指します。

凡例 (Explanatory Notes)

浸水深度	色	説明
1.00~2.00m未満	薄緑	浸水深度が1.00m未満の区域を示す。
2.00~3.00m未満	黄緑	浸水深度が2.00m未満の区域を示す。
3.00~5.00m未満	黄	浸水深度が3.00m未満の区域を示す。
5.00~10.00m未満	橙	浸水深度が5.00m未満の区域を示す。
10.00m以上	赤	浸水深度が10.00m以上の区域を示す。

高潮浸水想定区域 (想定最大規模) はどうやって決めたの？

この高潮浸水想定区域 (想定最大規模) は、国内調査と、最も大きな台風が、沿岸に襲来した場合の浸水深度をシミュレーションにより予測したものです。

● 想定最大規模：想定最大規模 (想定最大規模) は、国内調査と、最も大きな台風が、沿岸に襲来した場合の浸水深度をシミュレーションにより予測したものです。

● 想定最大規模：想定最大規模 (想定最大規模) は、国内調査と、最も大きな台風が、沿岸に襲来した場合の浸水深度をシミュレーションにより予測したものです。

高潮ハザードマップ

高潮ハザードマップは、高潮による浸水の危険度を示しています。浸水想定区域は、浸水深度が1.0m以上の区域を示しています。

1:15,000

中区高潮ハザードマップ (想定最大規模)

この高潮ハザードマップは、高潮による浸水の危険度を示しています。浸水想定区域は、浸水深度が1.0m以上の区域を示しています。

想定最大規模とは

● 想定最大規模とは

● 想定最大規模とは

● 想定最大規模とは